

職業能力開発総合大学校における指導員訓練の見直しについて

総合大がこれまで果たしてきた機能を念頭に置きつつ、また、訓練ニーズ調査を踏まえ、総合大を我が国の指導員訓練のレベルの維持及び向上を図る中枢拠点として再構築する観点から、以下の見直しを検討すべきではないか。

1 長期課程について

- ① 閣議決定等で職業訓練指導員養成の在り方、コストパフォーマンスを抜本的に見直すとされているが、見直しに際して、現行の長期課程が専門実技を重視した4年間で約5,800時間の訓練により確保している指導員訓練のレベルや将来の中核的指導員を養成する機能をどのように確保していくことが必要か。
- ② 都道府県や民間教育訓練機関等においては、即戦力志向により一定の知識や経験を有する民間企業経験者、工科系大学卒業者等多様な人材を採用している。これらの多様な人材を育成するための研修を外部で実施してほしいとのニーズがあり、求められる研修内容及び研修期間は多様であるが、どのようにしてそれらのニーズに応えることとするか。
- ③ 都道府県等において採用された、一定の知識や経験を有する民間企業経験者、工科系大学卒業者等多様な人材に、指導員として必要な能力を付加するための訓練を行うことで、指導員の能力の維持向上を図ることが可能か。

2 再訓練について

- ① 産業構造の変化や技術革新に伴い訓練ニーズが変化する中で、スキルアップ訓練について訓練内容の充実を図るとともに全国の訓練指導員の受講頻度を高めることが必要か。
- ② 民間教育訓練機関や民間企業においても、外部機関を活用したスキルアップ研修(Off-JT)のニーズは高いが、総合大がトータルコーディネート機能の一環として、民間における訓練指導の人材育成をするために、どのような訓練体系を構築するか。